

令和4年度第3回目黒区地域包括ケアに係る推進委員会会議録

名 称	令和4年度第3回目黒区地域包括ケアに係る推進委員会
日 時	令和5年3月1日（水） 午後6時30分～8時15分
場 所	目黒区総合庁舎1階 E会議室
出席者	<p>（委員）小林会長、武田委員、村上委員、立柳委員、佐藤委員、池田委員、酒井委員、小林委員、城市委員、山崎委員、田邊委員、高井委員、石黒委員 （欠席 中島副会長、細谷委員）</p> <p>（区側）竹内健康福祉部長、田邊健康福祉計画課長、堀内健康推進課長、保坂福祉総合課長、相藤介護保険課長、高橋高齢福祉課長、田中障害施策推進課長、岩谷障害者支援課長</p>
傍聴者	1名
配付資料	<p><事前配付資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1 令和5年度目黒区地域包括支援センター年間事業計画について ・資料2 令和4年度地域ケア推進会議について ・資料3 指定地域密着型サービス事業所の指定等の状況 （令和4年11月～令和5年1月） ・資料5 目黒区立特別養護老人ホーム中目黒の事業再開について <p><当日配付資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「目黒区地域包括ケアに係る推進委員会構成員」名簿 ・座席表 ・資料4 令和4年度目黒区地域密着型サービス整備事業者の募集結果及び令和5年度の募集について ・参考 地域づくりフォーラムチラシ
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 議 事</p> <p>（1）令和5年度目黒区地域包括支援センター年間事業計画について（報告事項）</p> <p>（2）令和4年度地域ケア推進会議について（報告事項）</p> <p>（3）指定地域密着型サービス事業所の指定等の状況（令和4年11月～令和5年1月） （報告事項）</p> <p>（4）令和4年度目黒区地域密着型サービス整備事業者の募集結果及び令和5年度の募集 について（報告事項）</p> <p>（5）目黒区立特別養護老人ホーム中目黒の事業再開について（情報提供）</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉 会</p>
会議結果	<p>1 議事に関する結果</p> <p>（1）令和5年度目黒区地域包括支援センター年間事業計画について 資料1「令和5年度目黒区地域包括支援センター年間事業計画について」の内容を確認し、報告を受けたものとした。</p>

	<p>(2) 令和4年度地域ケア推進会議について（報告事項） 資料2「令和4年度地域ケア推進会議について」の内容を確認し、報告を受けたものとした。</p> <p>(3) 指定地域密着型サービス事業所の指定等の状況（令和4年11月～令和5年1月）（報告事項） 資料3「指定地域密着型サービス事業所の指定等の状況（令和4年11月～令和5年1月）」の内容を確認し、報告を受けたものとした。</p> <p>(4) 令和4年度目黒区地域密着型サービス整備事業者の募集結果及び令和5年度の募集について（報告事項） 資料4の「令和4年度目黒区地域密着型サービス整備事業者の募集結果及び令和5年度の募集について」の内容を確認し、報告を受けたものとした。</p> <p>(5) 目黒区立特別養護老人ホーム中目黒の事業再開について 資料5の「目黒区立特別養護老人ホーム中目黒の事業再開について」の内容を確認し、情報提供を受けたものとした。</p>
--	---

議事に関する資料説明の概要及び主な発言要旨

1 令和5年度目黒区地域包括支援センター年間事業計画について（報告事項）

(1) 議事に関する資料説明の概要

（地域包括支援センター所長） 資料1に基づき説明

(2) 主な発言要旨

- 委員 東京医療センターでの新たな取り組みについて、具体的な説明を求める。
東京医療センターは三次救急の医療機関としてかかりつけ医からの紹介患者が多いため、かかりつけ医との連携をしっかりと行っていただきたい。
- 包括 医療相談室の方や退院支援の看護師の方から、各種福祉サービスの申請やケアマネジャーを探す依頼があり、日頃から病院に伺って支援している。その延長で看護師長や内科部長からの外来や入院患者の退院後が心配だという声に基づき、病院の相談室と支援内容の重複に配慮して、地域包括支援センター（以下、「包括」という。）ができる相談支援等を行っていく形で具体化した。内科部長からもかかりつけ医との連携を大切するよう承っている。
- 会長 医療と介護連携について、他の包括で調整する事例について伺う。
- 包括 すべての包括で介護申請の支援依頼や退院前のカンファレンスの出席依頼、ご家族の相談紹介等、病院との連携は行っている。
- 会長 医師会との連携について伺う。
- 包括 大病院から元の主治医に診療情報提供書を提供していただき、介護保険の申請支援やケアマネジャーを探して欲しい等の依頼や、ご家族への支援が多くなっている。病院によって、各ケアマネジャーに直接連絡が行く場合も、包括に連絡が入ることもある。
- 委員 包括がケアマネジャーにつなげる場合、その情報が医療機関には伝わってこないが、具体的な連携ツールはないのか。個人の資質によるところが大きく、このスキームで開始するならば、トラブルを避けるため包括の方で十分説明していく必要がある。医師会にも情報提供をいただきたい。
- 包括 委員ご指摘の内容は十分把握し、大病院への通院や入院はかかりつけ医に紹介状を依頼

し、退院時には大病院からかかりつけ医への診療情報提供を依頼している。

○区側 区の在宅療養の体制については、保健所(健康推進課)と福祉部門(福祉総合課)が共同事務局を務める、医師会・歯科医師会・薬剤師会の三師会に加えて包括や介護事業者連絡会等を含めた在宅療養推進協議会を設置している。

包括には在宅療養の相談機能もあり、各包括で取り組みをしている。在宅療養推進協議会においても、かかりつけ医の入退院時の連携や、特に介護部門との連携について、協議している。今回医療センターはまだ検討段階であるが、三師会含めその部分についてはしっかり連携をとっていきたい。

○委員 収支予算書の区分間繰入金収入・支出項目について、伺う。

○区側 運営経費には、包括の事業に直接関わる経費と、研修費等法人本部負担経費がある。従来
の予算・決算時の「その他」項目には両者が含まれており、前回ご指摘があったため、法人
負担経費のために法人本部に繰入する項目を新たに設けた。

○会長 重点的に取り組む事項について、どのような取り組みが非常に有効かといった数字的な裏
付けデータを示すことができるか。

○区側 認知度向上については、計画改定時に3年に1度調査しているので、数字的な指標を示す
ことができる。

総合相談の機能強化については、相談件数の統計に反映されると考えている。

地域のネットワーク構築の推進については数値化しにくいですが、例えば新たな活動や連絡会
の立ち上げ等、見える化できるような形で事業報告をしていきたい。

毎年秋に前年度の事業報告を行っているが、次年度の活動報告の中では、できるだけ数字
ベースで記載できるような形で示していきたい。

○包括 着任時に基本チェックリストを用いて地域住民のデータを把握したところ、コロナにより
家にひきこもったことによるうつ傾向の出現や下肢筋力の低下がみられたため、健康リズム
体操教室を立ち上げた。今年度の参加者に、同リストを用いてデータを再取得し、今後結果
をまとめて評価を現在試みている。

○委員 英語のリーフレットを作成したとあるが、多言語展開の予定について伺う。

高齢者のスマートフォン教室開催時は、詐欺被害防止とセットでお願いしたい。

○包括 英語が共通語のようになっていることが多いが、目黒区国際交流協会と連携して、ケース
を通じて必要な言語が発生してきたら検討していきたい。

○区側 区のDX戦略課が、高齢者からのスマートフォン等の問い合わせに対応できるよう、一部
の包括の職員対して、メリットやリスクも含めた講習を先日開催した。区だけではなく、包
括でも問い合わせを受けた際に対応ができるよう、進めている。

○会長 外国籍の方の医療保険と介護保険について伺う。

○区側 基本的に40歳から64歳の方で、日本の医療保険に加入されている方については、その
医療保険者が介護保険の保険者になる。

目黒区に住民票のある65歳以上の外国籍の方は、目黒区の第1号被保険者になるので、
申請に基づいて審査をして、介護度がつく流れになっている。

○委員 他自治体でチームオレンジによるLINEグループの活用があるが、いかがか。

○区側 区では、LINEでコロナのワクチン接種等を受け付けている。その他個別の具体的な事業

での活用については今後の検討段階である。目黒区は、他の自治体より高齢者のスマートフォンの保有率や利用率が高い傾向にある。行政利用の申請や福祉分野での活用等の取り組みも進んでいくと思われるので、検討していきたい。

○委員 結果が求められる時代のため、防災等、何か目的・目標の中でネットワークを構築するのがよいのではないか。

○包括 防災については、出張相談時に消防署や消費生活センター職員の講話を企画している。ネットワークについては、老人クラブの周知をホームページに掲載すること等を通して新たにかかわり、心配な方の通報等一定の効果が上がっている。

災害時要配慮者に対して、災害時の個別支援プランを推奨している。災害時に事業者等とネットワークを作り、実際に地域の方を支援していくことについては考えていく必要があると考えている。

認知症の本人ミーティング時に、テーマである災害をきっかけに、参加者同士でつながり、顔の見える関係を築くことができた。

○区側 災害時要配慮者の個別支援プランの作成に加えて、包括は総合防災訓練では要配慮者支援班に入って訓練に参加し、災害時に安否確認や要配慮者支援チームとして活動予定である。

ネットワークづくりは、安否確認・虐待・生活困窮等、数値化しにくいセーフティーネットとしての機能強化は、ネットワークの網を細かくしていくことによって、より行政の方にも情報が伝わりやすくなり、重要な要素だと思っている。

○会長 見守りめぐねっとの状況について伺う。

○区側 見守りめぐねっとは、区民の方の「ちょっと気がかり」なことに気づいたときに包括に連絡していただくしくみで、年間400件程通報がある。近隣住民や民生児童委員の方から、安否確認や認知症、ひとり暮らしの方への支援の相談が多い。

○委員 子どもや8050問題の相談状況について伺う。

○包括 相談件数は多くないが、障害児が通える障害以外の施設の問い合わせや高齢者の支援としてかかわった世帯にひきこもりのご家族がおられた場合は、保健予防課やコミュニティ・ソーシャルワーカー（以下、「CSW」という。）とともに世帯全体の支援に取り組んでいる。

○区側 区には子ども・障害等、それぞれ専門の相談機関があるが、包括及び包括の後方支援を行う福祉総合課が、各専門相談窓口と連携して世帯全体を考える個別会議を開催したり、対応したりしている。

○委員 包括と社会福祉協議会は、CSWだけではなく、在宅福祉サービスセンター、ボランティアセンター等、多くの部署が相互に相談、協力をしている。

○委員 包括の業務拡大として、総合相談事業が全世代に拡大するという件について、高齢者だけではなく、例えば子ども食堂の情報提供等、子どもに関する相談についても周知し、ボランティア情報の提供等も行政の仕事の一つではないか。

○区側 子育て支援については、総合支援拠点という形で、子ども若者世代を中心とした相談支援機能の再構築が検討されている。包括に相談があった場合は専門所管につなぐことにはなるが、福祉部門と子育て支援部門との連携をしっかりとやっていく。包括で様々な分野の相談を受けていることは、1月15日号の区報（全戸配布）の1面にも掲載して周知しているが、多世代にわたって包括の存在そのものを知らない方も多いため、今後も認知度向上に取り組

んでいく。

- 会長 1、令和5年度目黒区地域包括支援センター年間事業計画については、報告を受けたものとする。

2 令和4年度地域ケア推進会議について（報告事項）

（1）議事に関する資料説明の概要

（福祉総合課長） 資料2に基づき説明

（2）主な発言要旨

○会長 デイサービスに行きたくない方には、役割があるとよいという意見もあるが、いかがか。

○委員 個人差があり、好きなことができる方は自分で行動できるが、ぼーっとしているだけのよ
うな気がする、かえって自分で何もしなくなると思うからまだいいという声はよく聞く。

○委員 様々なことが対面でできるようになり、高齢者の方の様子もわかってきた。来年度は従来
のような活動に戻ると思われる。災害時要配慮者名簿を今まではただ預かるだけだったが、
今後はそれぞれの状況を把握し、防災訓練に参加を呼び掛けていこうと考えている。

○委員 自ら利用価値の高いところを選択して行く方もおられるが、プライドによって利用拒否さ
れる方もおられる。その場合は、サービスの利用を積極的に勧めず、その方に合わせた支援
を大切にしている。目黒区に限らず、心をくすぐる社会資源がまだ不足していると思う。

区には住区住民会議という地域に密着した仕組みがある。区民参加という形で、予防的な
ことも含め、「こういう人だから、こういうふうに守っていけば一緒にやれるよね」と、地
域ぐるみで支援するのがまちづくりにつながるとしており、今後協力していきたい。

○委員 ケアマネジャー等がデイサービスを勧めても、拒否される方が多い。役割や責任があれば
行くのかというところがそうとも限らない。包括がデイサービスに限らず体操教室等の情報を集約
し、民生児童委員の方に教室等を紹介していただければ、そこには行ってみようと思う方も
おられるかもしれないので、包括と連携していくのも一案だと思っている。

○委員 小物づくりやおしゃべりをするミニデイサービスを開催している。参加希望者が多く人数
制限もあり、満員である。ケアマネジャーや包括から紹介されて参加される方もおられる。

○委員 Dカフェでは、参加者を仲間としてみんなで一つの場を作っていく運営を心掛けている。
東京医療センターでも長年Dカフェを開催してきたが、コロナ禍で休んでいた。昨年8月に
オンラインで、先月から医師や看護師の方に住区センターに来ていただいて、対面で再開し
た。三宿病院では、昨年から病院内で、医師や看護師、リハビリスタッフの方とおしゃべり
の場を持つ形で開催しており、対面で話をするということの重要性を感じている。

○委員 老人クラブ連合会はコロナ禍で思うように活動はできないが、各クラブの集会で包括の説
明をしている例もある。高齢者センターでは、オンラインで多くの活動を行い既に時間割も
できているため、定例以外のものは差し込むことが難しくなっているが、包括もやって
いただけるとありがたい。

○委員 個人情報に注意しながら、情報の共有や連携をしっかりと行っていただきたい。サポートフ
ァイルやサポートブックのような形のものを作り、関係者が要支援者の情報を確認したいと
思ったときに、そこを見れば一連の流れがわかるようなシステムがあるとよい。

○会長 2、令和4年度地域ケア推進会議については、報告を受けたものとする。

3 指定地域密着型サービス事業所の指定等の状況（令和4年11月～令和5年1月）（報告事項）

（1）議事に関する資料説明の概要

（介護保険課長） 資料3に基づき説明

（2）主な発言要旨

○委員 なし

○会長 3、指定地域密着型サービス事業所の指定等の状況については、報告を受けたものとする。

4 令和4年度目黒区地域密着型サービス整備事業者の募集結果及び令和5年度の募集について（報告事項）

（1）議事に関する資料説明の概要

（高齢福祉課長） 資料4に基づき説明

（2）主な発言要旨

○委員 なし

○会長 4、令和4年度目黒区地域密着型サービス整備事業者の募集結果及び令和5年度の募集については、報告を受けたものとする。

5 目黒区立特別養護老人ホーム中目黒の事業再開について（情報提供）

（1）議事に関する資料説明の概要

（高齢福祉課長） 資料5に基づき説明

（2）主な発言要旨

○委員 改修に当たり中目黒ホームからさんホーム目黒に移動された方は、元の中目黒ホームに全員戻られるのか。

○区側 中目黒ホームの改修工事に当たり、さんホーム目黒へ44人が移動した。その内、改修工事後の中目黒ホームには25名が戻り、3名がさんホーム目黒を引き続き入所する。残りの方は亡くなるなどの理由で退所となった。

○会長 5、目黒区立特別養護老人ホーム中目黒の事業再開については、情報提供を受けたものとする。

6 その他

（1）主な発言要旨

○区側 3月11日土曜日に地域づくりフォーラムを開催するので、チラシを配付した。

○区側 今回は、6月頃を予定している。詳細については、改めて連絡する。

以 上